

2023年度 びわ湖トラスト親子環境学習講座 報告書

～びわ湖源流の森観察会・秋～

実施日 : 2023年11月4日(土)
後援 : 大津市教育委員会、巨木と水源の郷をまもる会
協賛 : 公益財団法人 平和堂財団
参加者 : 10組28名(大人:16名・子供12名)
スタッフ : 【講師】滋賀県立大学環境科学部 籠谷泰行先生
 【ガイド】巨木と水源の郷をまもる会 3名
 【スタッフ】びわ湖トラスト(理事2名、会員2名、ボランティア1名、事務員1名)

行程

9:30 道の駅くつき新本陣集合
9:50 点呼、健康チェック用紙回収、現地へ出発
10:00 森林公園くつきの森到着
10:10 開会式(ユリノキ広場—あいさつ、スタッフ紹介、登山中の注意、準備体操)
10:30 登山開始前の講義(しおり「びわ湖と森」配布)
10:50 登山開始、途中随時水分補給の小休止
11:50 鉄塔のある展望地(最高地点)記念撮影
12:40 河原に下りて休憩、記念撮影
12:50 登山終了、昼食、アンケート配布
13:30 やまね館へと移動開始
13:40 自然観察の振り返り
14:00 クラフトづくり(ヒノキのお箸)作成開始
15:00 閉会式(やまね館—あいさつ、びわ湖トラストの活動紹介、アンケート回収)
15:10 解散、クラフト完成後随時帰路へ

年2回開催しているびわ湖源流の森観察会、春は台風が襲来して川の増水や斜面の崩壊の危険性があるため、前日になってやむなく中止の運びとなった。

秋の観察会は、無事開催の日を迎えることとなり、当日は快晴ではないものの、カンカン照りが避けられた点で、天候にも恵まれたといえよう。木々の紅葉も始まっていて、人里離れた森林公園内の澄んだ空気の中、心と体をリフレッシュしつつびわ湖源流の自然観察を行うのにとってつけの環境が整った。

集合場所は道の駅くつき新本陣、バス乗車の参加者が到着後、自家用車の参加者も揃ったところで森林公園くつきの森に移動する。10分足らずで公園の駐車場に到着。待機していただいた「巨木と水源の郷をまもる会」のスタッフと合流、各自昼食を持参して開会式を行うユリノキ広場へと向かう。

開会式ではスタッフ紹介後、講師の籠谷先生が準備したしおり「びわ湖と森」を配布し、滋賀県や琵琶湖の概要を話しながら、「山歩き中には話をよく聞いて、しおりの質問に解答するように」と伝えられる。

森林公園のスタッフが山歩き中のマナーとして、「落ちている木の実など以外の植物を持ち帰らないように」と注意して、危険な動物として毒ヘビのイラストなどを見せていると、自然に詳しい男の子は直ちに正解を答えて、このイベントに参加してくれる子どもたちの真剣さと博学ぶりが伝わってくる。



登山は一種のハードなスポーツ、転倒などして怪我をしないよう念入りに準備体操を済ませいざ出発。細い山道を講師を先頭に長い隊列で進む。徐々に傾斜も大きくなり、息切れしないように控えめのペースで、水分補給も随所で摂りながら上って行く。



籠谷先生は以下の2点を中心に小学生がわかるよう丁寧に説明をされた。

- ① この地域の気候で生育する植物の種類とその見分け方として葉の生え方がポイントであること。
- ② 最近の生態系の変化として、動物特にシカの急増による食害、シカの食べない毒性を有する馬酔木(アセビ)が天然林で支配的になってきていること。

ここでも食いつきのよい子どもが先生を取り囲んで、我れ先と先生のお話に反応していた。虫好きの子どもは大人では発見できない昆虫の幼虫を木の中に見ついたり、バッタやカマキリを見つけて持参した透明の容器に収めていた。

鉄塔のある展望ポイントから朽木の里山の風景を俯瞰、大休止と記念撮影をする。下りは上り以上に傾斜が急で、怪我には至らないほどの転倒が主に大人に続出する。ひとしきり降りたところが「ヤッホーポイント(山びこ)」対岸の斜面に向かって声を合わせて「ヤッホ!」、ホーと伸ばさないのがここでの要領らしい。



平地に降り着いて、川沿いをユリノキ広場に戻る。途中で河原に降り立ち岩の間にできた円形の穴の水溜りにイモリを発見。腹が赤いためアカハラ(イモリ)と呼ぶそうだが、腹面は見られず確認できない。河原で2回目の記念撮影をする。予定時刻を大幅に超過して広場に戻り、昼食時間は予定の半分の30分余り。曇っているお陰で日差しを気にせず参加者は各自の気に入った場所でくつろいでいる。

午後からは公園内の施設やまね館に移動して、午前中の振り返りとしおりの質問の答え合わせ。

その後、森林公園が準備しているクラフト作り、今回はその中から「木のおはしづくり」をする。素材の木はヒノキ。森林公園のスタッフから手順の一通りの説明を受け、まずは①かんなで四角い棒を削るところから始める。原則子ども一人でいうが、多少危険を伴う作業であるため、保護者やスタッフが側について補助する。その後、②紙やすりでみがく ③鉛筆で下書き ④バーニングペンでなぞって黒くする、と進め最後に ⑤油を塗って完成、となるが、一膳二本分を完成させるのに丁寧さや要領などの違いから時間に個人差がかなり生じる。



籠谷先生は山で拾ったドングリの実の中心に穴をあけて爪楊枝を置いて帰られた。おはしづくりを終えた子たちが爪楊枝を穴に差し込むとドングリゴマが即出来上がり。指で勢いよく回して楽しんでいた。

おはしを完成した子どもが数名おられたところで、一旦作業を中断して閉会式を行う。「楽しめましたか？」の質問にはほぼ全員が挙手、「疲れていてもまだいけるか？」の質問には「まだいける」という男の子が、2、3名いた。びわ湖トラストが開催している他の環境学習講座を紹介し、最後は「巨木と水源の郷をまもる会」の方に再度、自然のありがたみと保護の大切さ、我々の責任を認識してもらってお話をしていただいて本日の観察会はお開きとした。

参加者のアンケートの感想を読んでも保護者、子どもともに全員が「とてもよかった」と「よかった」のいずれかの高評価を選んでいただいて、全員が怪我も体調不良となることもなく終わられ、今回のイベントの責任者としても有意義で達成感の大きな観察会であったと感じております。

(文責 岩崎功志)